

今一度、「協同組合」というものを深め、「協同の時代」を拓く特別の使命と役割自らに

課し、悔いの残らないよう今を生きていきたい。先人たちの無念をいつも抱きながら。

研究所だより

榎本 木綿

先日、警察庁の2009年度自殺統計が出され、前年度より1.8%増加、12年連続で3万人を超したことが発表されました。なかでも若い世代の20代～30代の自殺率が前年度に続き増加し、自殺動機のトップは「健康問題」(1万5,867名)、そのうち「うつ病の影響・悩み」がおよそ44%(6,949名)を占め、また、動機に「失業」が含まれた割合は前年比で7割近く増加したそうです。

かつては「失業」というと中高年のイメージが強くありましたが、いうまでもなくいまや若年層を取り巻く正規就労への困難さは増す一方です。非正規や派遣で働く若者は、容易に解雇対象とされる環境のなかで怯え、解雇されることを繰り返すうちに自己不全感を増し、うつ病などを発病させることも少なくありません。また、正規労働者もストラにより縮小された職場機能を埋めるべく、仕事量や責任が増され、自殺に追い込まれるケースもしばしばです。

先日開かれた千葉縣市川の集会では「協同労働の協同組合」法制化をめざす市民、一千余名が一堂に会し、なぜこの法が必要なのかを訴えました。正規労働者として働きながらも過酷な労働の現場からうつを発病し、辞職。その後、ワーカーズコープがさいたま市から受託、開催した若者職業的自立講習へ参加し、現在は健康を取り戻し

ながら、同じようにやむを得ず失業や派遣切りなどに遭った他の受講生たちと共に、皆が共に働け、集えるコミュニティ喫茶の設立に向けて奮闘中という女性のお話や、不登校やひきこもりの子どもたちの親の会を発端に、障がいを持つ人たちなども含めたハンディを持つ人たちが一緒に働ける場を作っているワーカーズ・コレクティブの方などが自分たちの取組み報告を通じて、その思いを訴えました。

また、同日行われたトークセッションでは笹森清市民会議会長がコーディネーターを務められ、福嶋浩彦さん(中央学院大学、協同総研理事)と湯浅誠さん(反-貧困ネットワーク事務局長)が登壇され、そのなかで「新しい公共」の担い手として「協同労働」という新しい働き方への期待を強く語られました。特に福嶋さんからは、「新しい公共」の担い手が従来の単なる公からの事業の下請けではなく質を問われるものであることなどが挙げられ、現在の雇用破壊の防波堤として「協同労働」への期待が力強く語られ、会場全体が法制化への熱い想いを共有した場となったことが印象的でした。

鳩山政権がすすめる「新しい公共」では、官が担ってきたまちづくりを地域に暮らす人たちがボランティアに担うことで地域に暮らす人々の幸福感が増すということを訴

えています。たしかに自分の住む地域を市民自身で担うことは住みよい地域をつくり、自分もその地域の一員なのだという自負心や満足感を得られます。しかし同時に、それが安心して生活するに足る働く場とならなければ、本来の意味での「新しい公共」の礎となる「市民自治」や「地域主権」とはかけ離れた、単なる安上がりな公共の担い手にすり替えられたものとなります。

これ以上自殺者を増加させないためにも、若者もハンディを持つ人も高齢者も、皆が働きながら、安心して生活でき、参加できる社会やまちづくりこそが必要です。地域を良くしたい、働く場が欲しいと望む人たちに合わせた法の制定と社会環境の整

備が早急に必要だと感じた一日でした。

第20回協同総合研究所総会と記念フォーラムの日程が決定しました。今号をお届けするにあたりご案内を同封しますのでご多用のことと存じますが、会員の皆さま、ぜひご来場ください！

◆第1部 協同総研第20回総会

日時：6月26日(土)10:30~12:30

会場：明治大学駿河台キャンパス研究棟

◆第2部 総会記念フォーラム

時間：13:30~17:30 詳細は別紙を確認ください。

新入会員(2010.4.1~4.30)

団体会員

広島県農業協同組合中央会(地域生活部)

関心テーマ：協同労働の協同組合

個人会員

佐々木 雅夫(北海学園大学大学院経済学研究博士課程)

岡村 信秀(広島県生活協同組合連合会専務理事)

関心テーマ：協同組合、地域づくり、消費者政策

太田 貞司(神奈川県立保健福祉大学教授)

関心テーマ：高齢者ケア・地域ケアシステム

飯沼 潤子(ふじみ野市議会議員)

青山 博明(労協センター事業団東関東事業本部)

早尻 正宏(山形大学農学部准教授)

専門：林業経済学

購読会員

日販アイ・ピー・エス株式会社

研究所活動日誌

04/03(土) 広島協同労働ネット準備会(田嶋)

04/05(月) 「全国協同集会2010 in 四国」第

3回実行委員会(高松：島田、田嶋、榎本)